



いにしえ  
**古から、現代、**  
 ま  
**そして未来へ。**

会津街道の入り口に位置する本宮町は、奥州街道の舟運の起点として栄えましたが、そんな面影を残すかのように、阿武隈川では和舟による舟こぎ競争や、夏の夜空に大輪の花を咲かせる花火大会、手作りイカダを持ち込んで参加する自作イカダ下り大会など、夏の暑さを吹飛ばす夏まつりが盛大に行われます。



久安元年(二四五年)安達太良の神を安達郡の鎮守として祀り、このときから本目村から本宮村に改められ、明治二十二年の市町村制により町制が施行されました。

秋には、昔、神を祀るのに裸になって身を清め、かつぎ上げたことから、裸みこしが現在にも受け継がれ、勇壮に町を練り歩きます。さらに、ふるさとおこし事業として、昭和五十九年には安達太良太鼓が創設され、昭和六十年には女性だけの「真結女みこし」が結成されて、祭りに花を添えています。また露店も暴力団を排除して、地元商店街独自に出店する本宮方式が十九年目を迎え、毎年大変なにぎわいを見せています。各地に波紋を広げています。